

2025年12月8日

2025年度 日本医学図書館協会関東地区会研修会

論文の医学誌掲載における OA化促進とその障壁について

佐藤翔（同志社大学）



佐藤 翔

サトウ ショウ (Sho SATO)

カバー写真の追加

更新日: 07/30

ホーム

研究キーワード

研究分野

経歴

所属学協会

受賞

書籍等出版物

論文

MISC

講演・口頭発表等

担当経験のある科目(授業)

Works(作品等)

共同研究・競争的資金等の研究課題

学歴

委員歴

産業財産権

学術貢献活動

社会貢献活動

メディア報道

その他

外部システムからのデータ取り込み

エクスポート

インポート

並べ替え

設定

メニュー

マイポータル

研究ブログ

資料公開

共著者の一覧

原田 隆史
06/28 更新吉田 光男
07/23 更新大向 一輝
08/14 更新池内 有為
08/02 更新

基本情報

編集

所属 [同志社大学](#) 免許資格課程センター 教授学位
修士 (図書館情報学) (筑波大学)
博士 (図書館情報学) (筑波大学)研究者番号 [90707168](#)ORCID ID <https://orcid.org/0000-0001-8599-5374>J-GLOBAL ID [201101094760760995](#)researchmap会
員ID B000000256外部リンク <https://min2-fly.hatenablog.com/>

同志社大学免許資格課程センター教授。図書館司書課程を主として担当。
ブログ「かたつむりは電子図書館の夢をみるか」 (<https://min2-fly.hatenablog.com/>) 管理人。最近は全然、更新していませんが・・・。

研究キーワード 12

編集

[貸出統計](#) [オルトメトリクス](#) [公共図書館](#) [ブラウジング](#) [ログ分析](#) [情報行動](#) [視線追尾](#) [計量書誌学](#)
[アウトソーシング](#) [機関リポジトリ](#) [学術情報流通](#) [大学図書館](#)

即時O/A義務化と
求められる対応

基本方針の主な内容

理念

公的資金により生み出された研究成果の国民への還元と地球規模課題の解決に貢献

国全体の購読料及びオープンアクセス掲載公開料の総額の経済的負担の適正化

我が国の研究成果の発信力の向上

2025年度新規公募分*から、学術論文等の即時オープンアクセスの実現

*学術論文を主たる成果とする競争的研究費制度を対象

1. 学術出版社に対する**交渉力の強化**
2. 研究成果を管理・利活用するための**情報基盤の充実**
3. **研究成果発信力**の強化
4. **国際連携等**

つまりなにが
求められている？

公的資金の成果である査読論文
と根拠データを、即時に、機関
リポジトリ等で公開する

公的資金の成果である査読論文
と根拠データを、即時に、機関
リポジトリ等で公開する

公的資金の成果である査読論文
と根拠データを、即時に、機関
リポジトリ等で公開する

OA2025 当面の対象助成資金

- 学振 科学研究費助成事業（科研費）
- JST 戦略的創造研究推進事業
- AMED 戦略的創造研究推進事業
- JST 創発的研究支援事業

公的資金の成果である査読論文
と根拠データを、即時に、機関
リポジトリ等で公開する

OA2025のWhat なにを登録？

- 学術論文

- 「査読付き」学術論文。図書や依頼原稿は除外
- 査読があれば紀要も対象。日本語論文も対象
- “掲載”論文が対象。プレプリント段階は除外
- 「著者最終稿」を含む

- 根拠データ

- 「掲載電子ジャーナルの執筆要領、出版規程等において、透明性や再現性確保の観点から必要とされ、公表が求められる」もの
- 公表を前提とするもので、査読の過程等で使うものではない
- 基本的にはsupplemental data. 一部、suppleにできなかった自力公開データ

公的資金の成果である査読論文
と根拠データを、即時に、機関
リポジトリ等で公開する

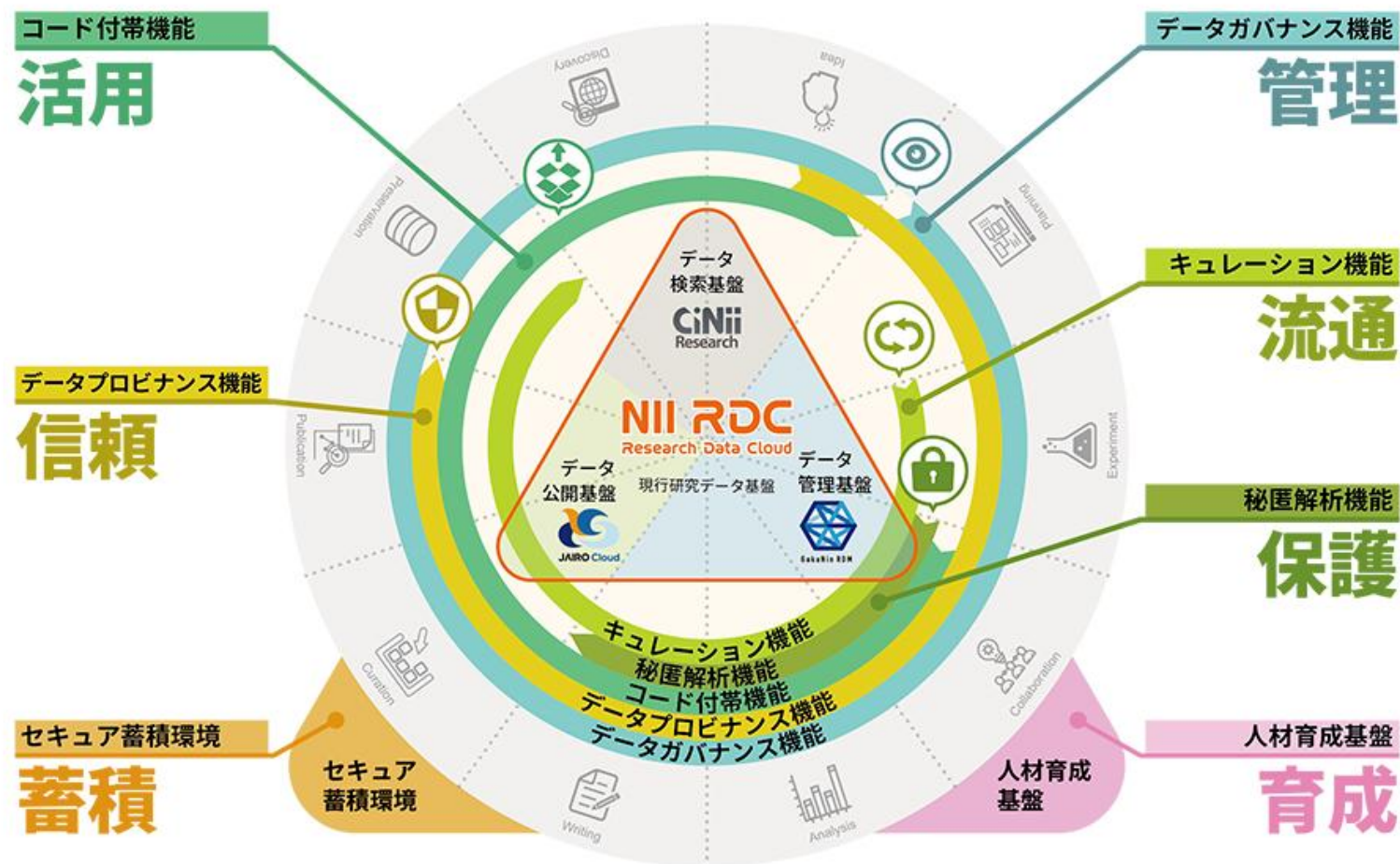
OA2025のHow どうやって？

- 「機関リポジトリ等の情報基盤への掲載」
 - 「NII RDC上で検索できる」が要件
- 【原則】としては所属機関のリポジトリに掲載・公開
 - それ以外の方法もNII RDCで検索できればOK

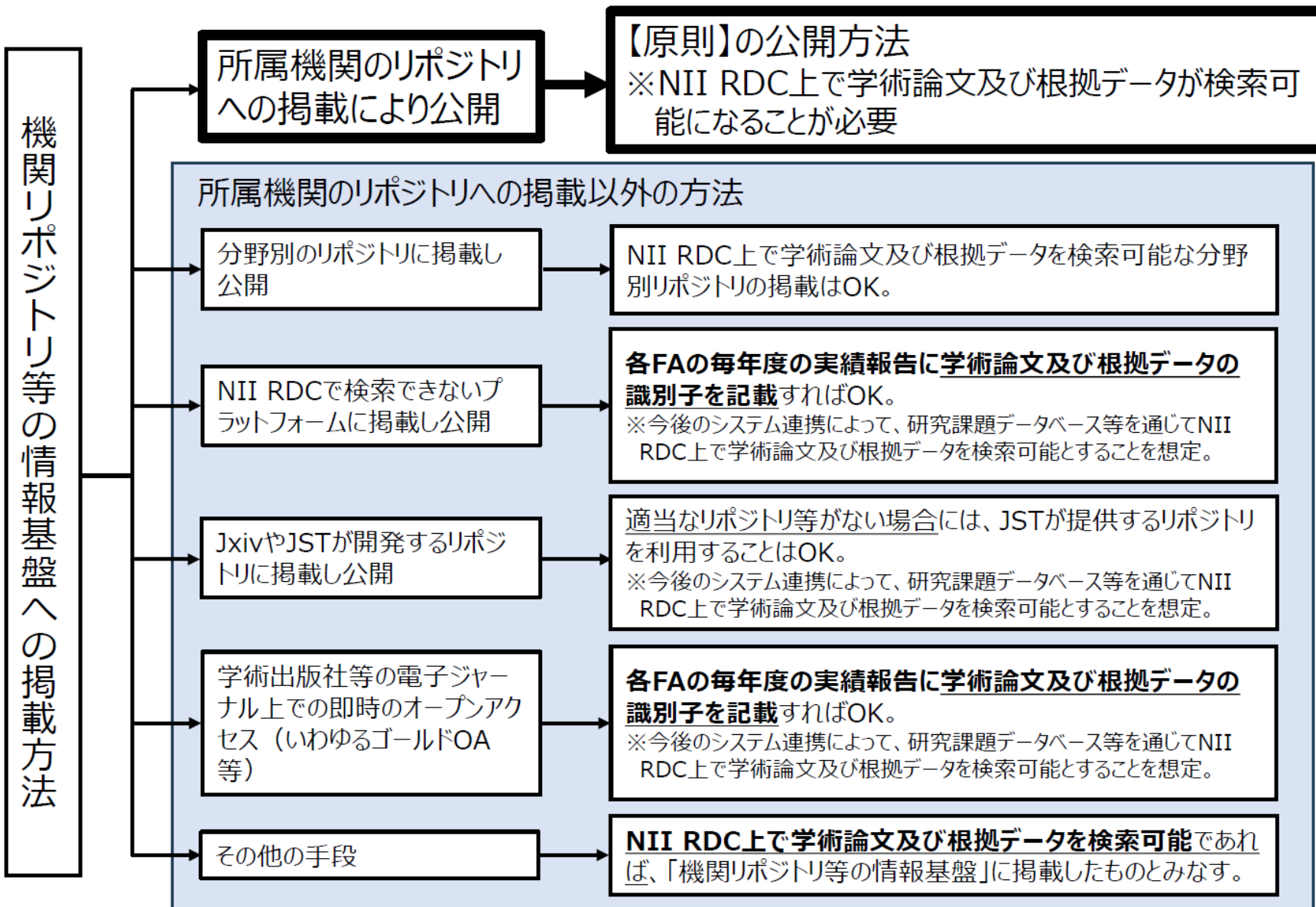
NII研究データ基盤（NII Research Data Cloud：NII RDC）の概要

NII研究データ基盤（NII RDC）は、オープンサイエンスと研究公正を支え、データ駆動型研究を推進する情報基盤です。研究データのライフサイクルに即した3つの基盤「管理基盤（GakuNin RDM）」「公開基盤（WEKO3）」「検索基盤（CiNii Research）」から構成されています。RCOSは、2017年からNII RDCの開発に取り組み、[2021年に本格運用を開始しました](#)。

2022年からは、3つの基盤を7つの側面から高度化することを目指しています。2027年までに「データガバナンス機能」「データプロビナンス機能」「コード付帯機能」「秘匿解析機能」「セキュア蓄積環境」「キュレーション機能」「人材育成基盤」を順次実現していきます。



D. 「機関リポジトリ等の情報基盤」への掲載



「どうやって」をさらに踏み込む

- 機関リポジトリ
 - 当然OK！
- オープンアクセス雑誌
 - DOIを成果報告時に書けばOK！
- プレプリント
 - JxivはOK！ 他もNII RDCで探せるか、DOIを成果報告時に書けばOK！
 - ところで「プレ」でもいいの？⇔FAQ等を見る限りダメ！！
- 査読後の版を無料公開して成果報告にDOI書くことができればだいたいOK

G. オープンアクセスの実施状況の把握

即時オープンアクセスの実施状況については、各資金配分機関への毎年度の実績報告に記載された情報を基に、「即時オープンアクセス論文数／学術雑誌への掲載論文数」により把握するため、各資金配分機関に対する毎年度の実績報告時に個々の学術論文及び根拠データごとに以下の情報を記載する。

i. 一般的な書誌情報 <既存>

ii. 査読の有無 <既存>

iii. 即時オープンアクセスの実施有無 ※ <新規>

iv. （即時オープンアクセスの実施無の場合）即時オープンアクセスが困難な理由 <新規>

v. 学術論文へのリンク

- ・出版社版のDOI <既存>

- ・「機関リポジトリ等の情報基盤」のランディングページのURL等の識別子 <新規>

vi. 根拠データへのリンク（機関リポジトリ等の情報基盤のランディングページのURL等の識別子。根拠データの公表が求められていない場合はその旨） <新規>

※転換契約やオープンアクセス掲載公開料（APC）の活用によりエンバーゴなしでオープンアクセスとした場合等について機関リポジトリ等の情報基盤への掲載が、掲載に係る手続きに時間を要することにより実績報告時に未実施の場合においても「即時オープンアクセスの実施有り」を選択。

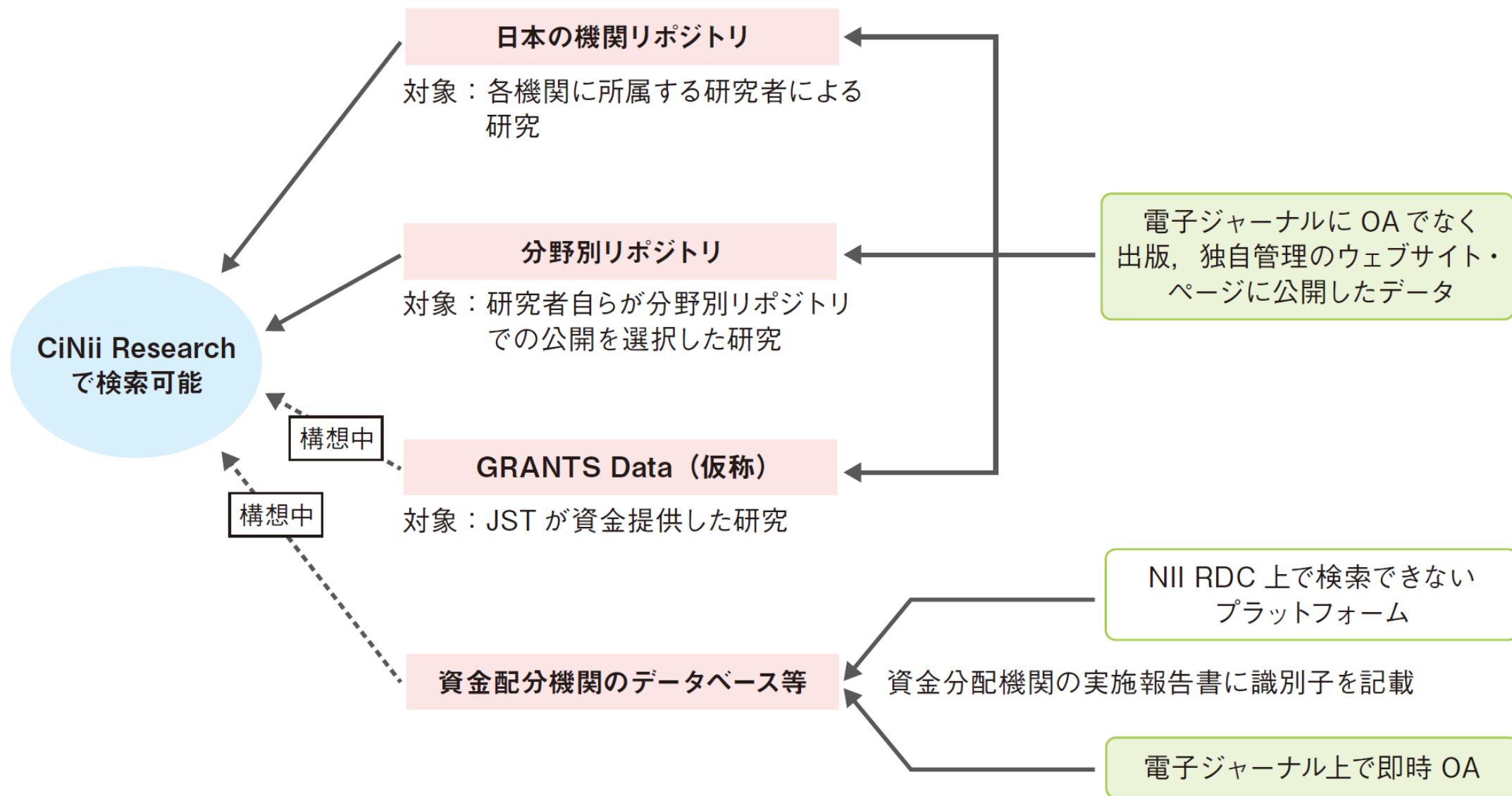


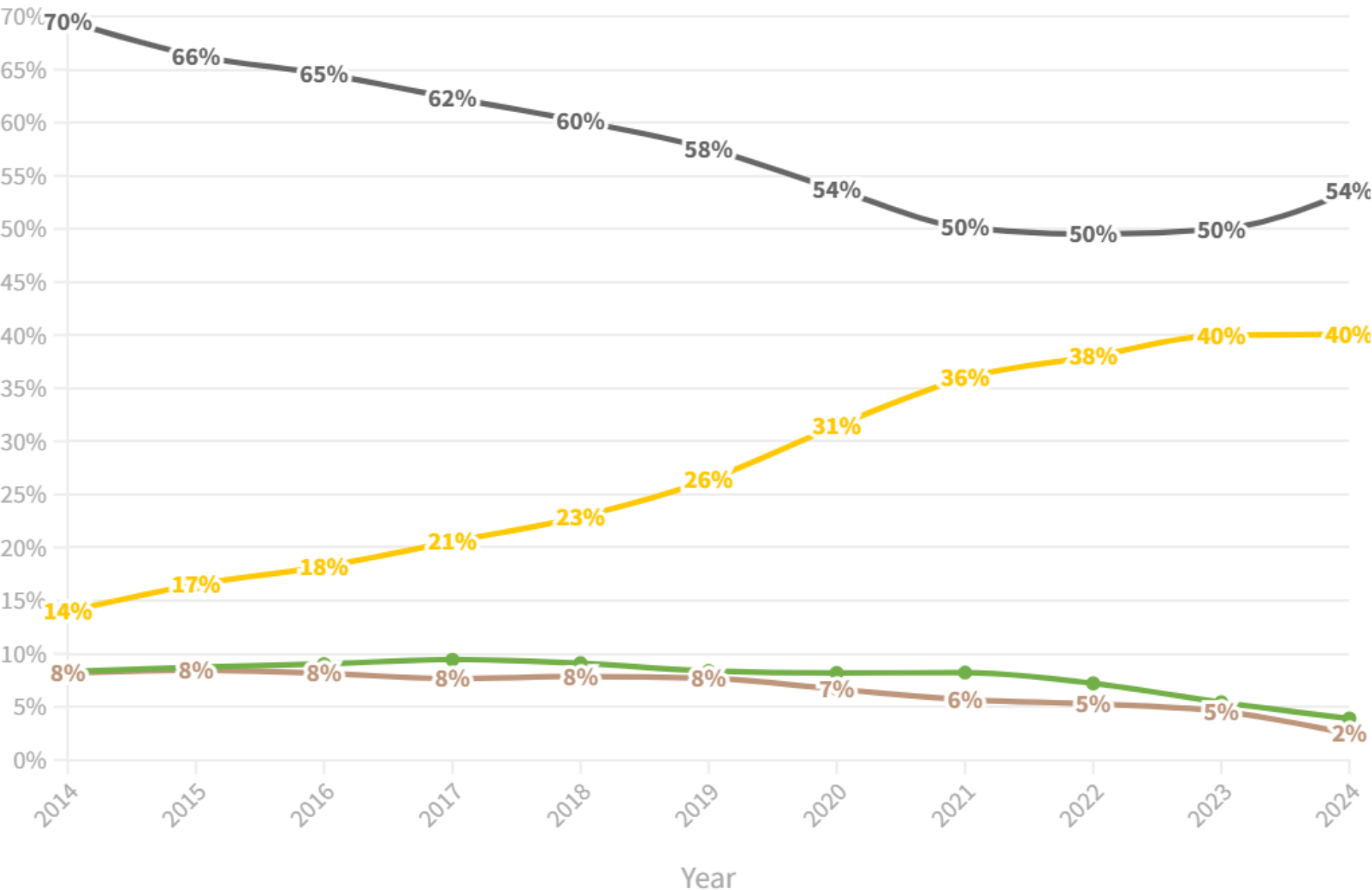
図 根拠データの公開方法

OA化促進と その障壁

Global scholarly publishing by access type, share of publications

Gold Green Bronze Subscription-only

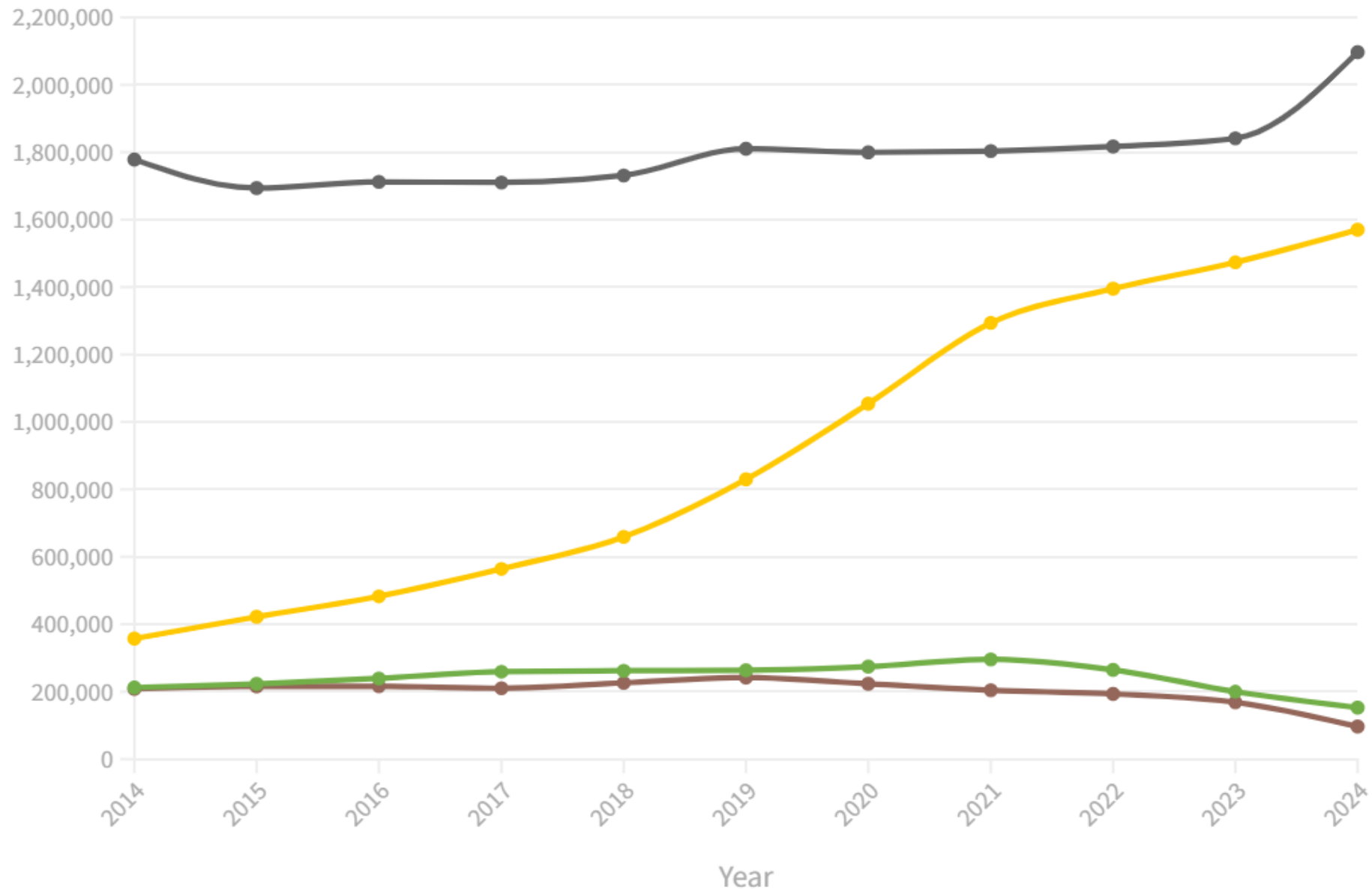
Percentage of articles, reviews and conference papers



Global scholarly publishing by access type, number of publications

Gold Green Bronze Subscription-only

Articles, reviews and conference papers



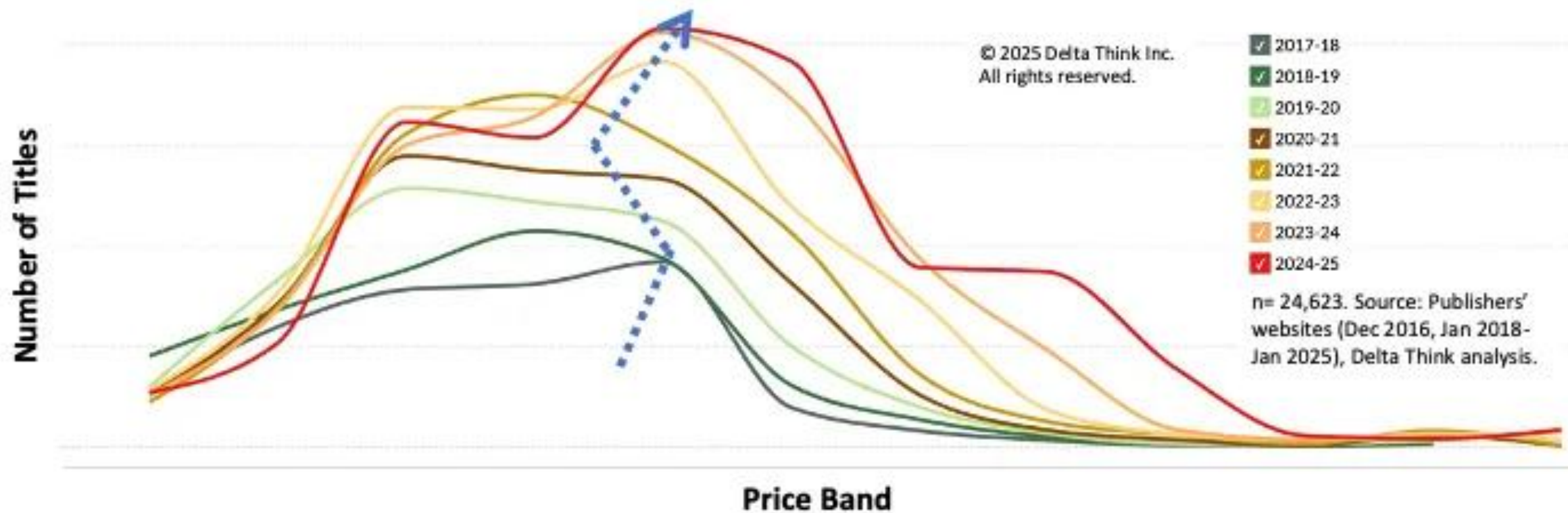
オープンアクセス

雑誌

オープンアクセス雑誌の現状と障壁

- 現状もっとも普及しているOA化手法
- 一層の推進の障壁は？
 - APCの高騰・負担増：「富める者のOA」
 - 掲載先としての妥当性（Predator／Special issue問題）

Figure 2: Changing Price Distribution – Fully OA list APCs



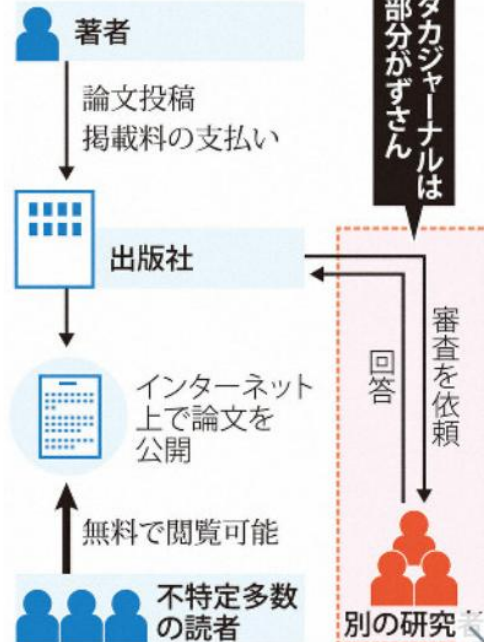


粗悪学術誌掲載で博士号 8 大学院、業績として認定

会員限定有料記事 毎日新聞 2018年12月16日 06時45分 (最終更新 12月16日 12時22分)

社会一般 > 社会 > 速報 >

オープンアクセス型学術誌の仕組み



オープンアクセス型学術誌のしくみ

インターネット専用の学術誌に論文審査がずさんな粗悪学術誌「ハゲタカジャーナル」が増えている問題で、佐藤翔（しょう）同志社大准教授（図書館情報学）が医学博士論文106本を抽出調査したところ、7.5%に当たる8本にハゲタカ誌への論文掲載が業績として明記されていた。ほとんどの大学が「査読（内容チェック）付き学術誌への論文掲載」を博士号授与の要件としており、要件を満たすためハゲタカ誌を利用した可能性がある。

調査は、国立情報学研究所の博士論文データベースを利用した。名称に「医学」を含む博士号を2017年に…



ピックアップ

話題の記事

アクセスランキング

1時間 1日 > 1週間 > SNS > 動画 > 写真 >

毎時01分更新

- 質問なるほど
「カサンドラ症候群」って？ 意図伝わらぬ障害の相手に苦悩 心身に不調＝回答・野村房代
- 南アフリカ
航空機の車輪格納部から遺体 密入国か
- 世界の雑記帳
米ユナイテッド航空機内で子犬死ぬ、座席上の棚に収納指示され

Wiley to stop using “Hindawi” name amid \$18 million revenue decline

Wiley will cease using the beleaguered Hindawi brand name, the publisher announced on an earnings call Wednesday morning.

Wiley plans to integrate

Hindawi's approximately 200 journals into the rest of its portfolio by the middle of next year.



Hindawi大量撤回の背景

- 「特集号」 (special issue) とゲスト・エディター
- 「論文工場」 (paper mill)
- 「査読リング」 (peer-review ring)

OA雑誌の「特集号」

- 「特集号」の企画提案・ゲストエディターを募集する
 - ゲストエディターは投稿募集・査読等のプロセス全体に関与
- 雑誌にとって：コンテンツ・APCを労力をかけず収集
- ゲストエディター：汲みたい企画を提案できる
- 巻号のつく通常号とは別の扱い？
 - 査読の基準／研究評価指標の集計時の扱い
- 「Predatoryな行い」の一種との見方も

論文工場 (paper mill)

- 論文を安価・大量に「製造」 (無意味な内容あるいは捏造)
- オーサーシップ (著者に入る権利) を販売⇒収入を得る
- 組織だった (潜在的な) 違法・詐欺的行為
 - 少なくともオーサーシップや捏造に関わる重大な研究不正
- 過去数年で急速に成長

査読リング (peer-review ring)

- 互いの論文について、好意的な査読をしあおう、という（過去の例としては個人的な）ネットワーク
- 多くの場合、発覚しえない（福井大学の場合も内部通報がなければ発見は困難）
 - Cf: 投稿者個人による査読不正（発覚しやすい）

学術雑誌のクオリティコントロール

- 購読モデル：質が低ければ買われなくなる。質はビジネスに重要
- APCモデル：質が低ければ投稿されなくなる……はず？
 - 論文を投稿・発表するニーズは根強く、伸び続けている
 - 「国際誌ならPredatorでもいい」「Predatorでさえなければいい」
 - クオリティコントロールを犠牲にしても多くの論文を出すのが正解？
 - 一定以上出せば、出していることが権威の保証にもなる
- 質を無視したのがpredator、多少犠牲にしたのが特集号

機関リポジトリ

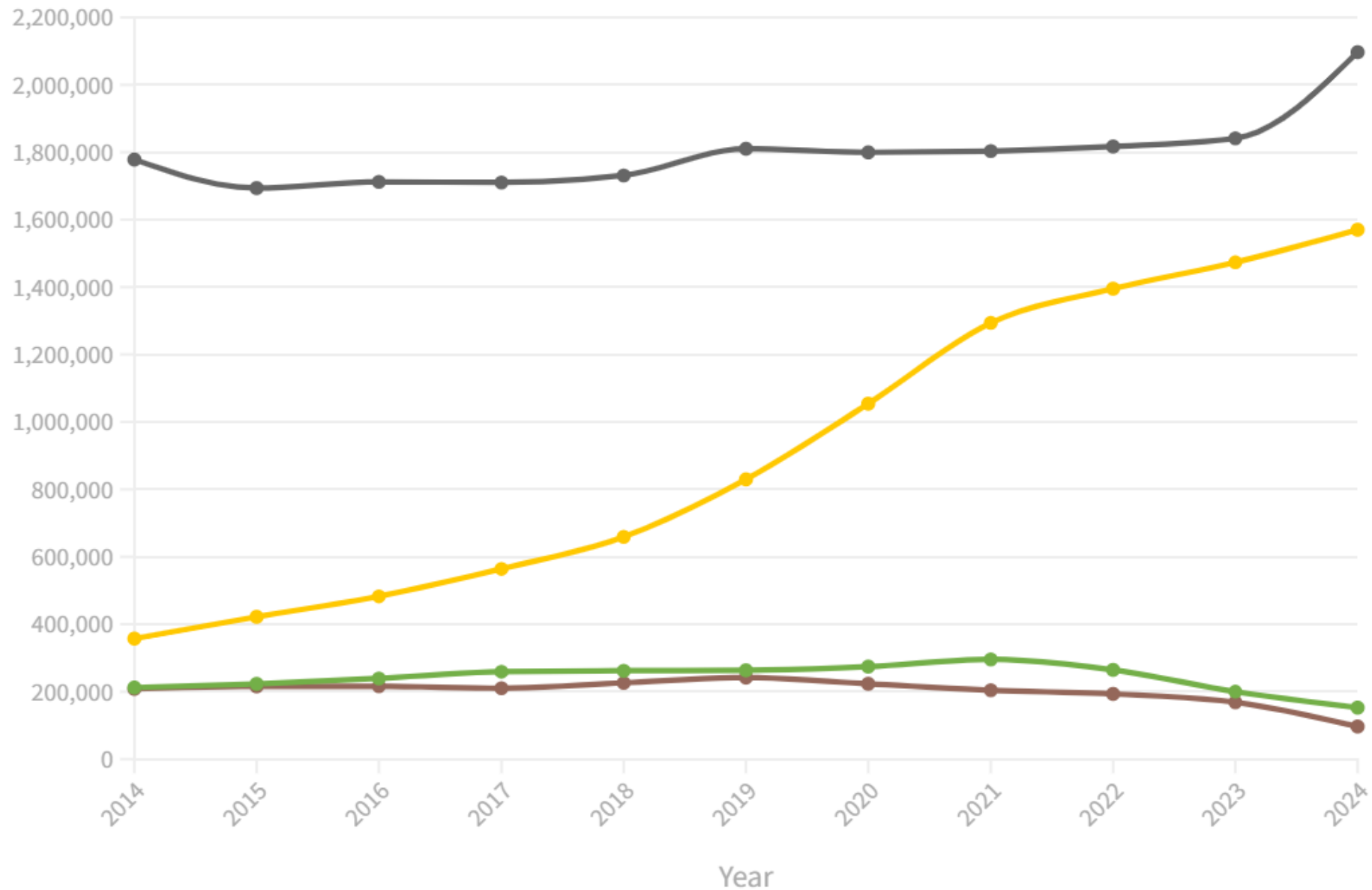
機関リポジトリの現状と障壁

- オープンアクセス雑誌に比べると普及の度合いは限定的
 - 国・機関によっては活用されている：「貧者のオープンアクセス」
- 一層の推進の障壁は？
 - エンバーゴ
 - 著作権
 - 作業力

Global scholarly publishing by access type, number of publications

Gold Green Bronze Subscription-only

Articles, reviews and conference papers



2024年12月17日@JPCOAR

「機関リポジトリの次の一手を考える」シリーズ勉強会第2回

CCライセンス、権利保持戦略、二次出版権

鈴木 康平

人間文化研究機構 特任准教授



本資料はCC BY 4.0の下で提供されています。

権利保持戦略 (Rights Retention Strategy, RRS)

- **出版社に論文の著作権を譲渡等する前に**、オープンアクセス(OA)にするための利用許諾を所属機関や助成機関に対して著者が与えること、あるいは、助成機関が論文をCC BYなどで公開することを助成対象者に義務付けること
- 権利保持戦略の代表例
 - ハーバード大学のOAポリシー
 - 明示的なオプトアウトが無い限り、教員は著者最終稿について、大学に対してアーカイブと配布の非独占的ライセンスを与える
 - cOAlition Sが提唱した「プランS」における権利保持戦略
 - 助成対象者に対して出版時にCC BYによる公開を要求 (CC BY-SA、CC0も使用可能)

参考：Christina Angelopoulos, 'Study on EU copyright and related rights and access to and reuse of scientific publications, including open access: Exceptions and limitations, rights retention strategies and the secondary publication right' (Publications Office of the European Union, June 2022)

Harvard OSC, 'Harvard Faculty of Arts and Sciences Open Access Policy' (12 February 2008) <https://osc.hul.harvard.edu/policies/fas/>
Plan S, <https://www.coalition-s.org/>, <https://www.coalition-s.org/rights-retention-strategy/>

日本における権利保持戦略の(法制上の)実現可能性と課題

- 日本の著作権法上は、権利保持戦略は機能しそう
 - 利用権の当然対抗制度（著作権法63条の2）
 - 利用権の設定にあたって、行政機関への登録などは不要
 - 著者が出版社等に著作権を譲渡する前はもちろん、譲渡した後でも、譲渡(移転)の登録がなされる前に第三者(大学等)にライセンスした場合、出版社等に対して、第三者はライセンスの存在を主張できると考えられている
 - 著作権の譲渡を第三者に対抗するためには、文化庁への登録が必要(著77条)
 - ただし、大学等が譲渡の事実を事前に知っていた場合の扱いは議論がある
- 出版社との契約との関係上、権利保持戦略が実際に機能するのは疑問
 - 投稿規程などに「事前にライセンスしていないこと」といった条件がある場合に、権利保持戦略に基づきOA化すると契約違反になり得る
 - OAのために出版社と契約条件をわざわざ交渉する研究者が多いとは思えない

G. オープンアクセスの実施状況の把握

即時オープンアクセスの実施状況については、各資金配分機関への毎年度の実績報告に記載された情報を基に、「即時オープンアクセス論文数／学術雑誌への掲載論文数」により把握するため、各資金配分機関に対する毎年度の実績報告時に個々の学術論文及び根拠データごとに以下の情報を記載する。

i. 一般的な書誌情報 <既存>

ii. 査読の有無 <既存>

iii. 即時オープンアクセスの実施有無 ※ <新規>

iv. （即時オープンアクセスの実施無の場合）即時オープンアクセスが困難な理由 <新規>

v. 学術論文へのリンク

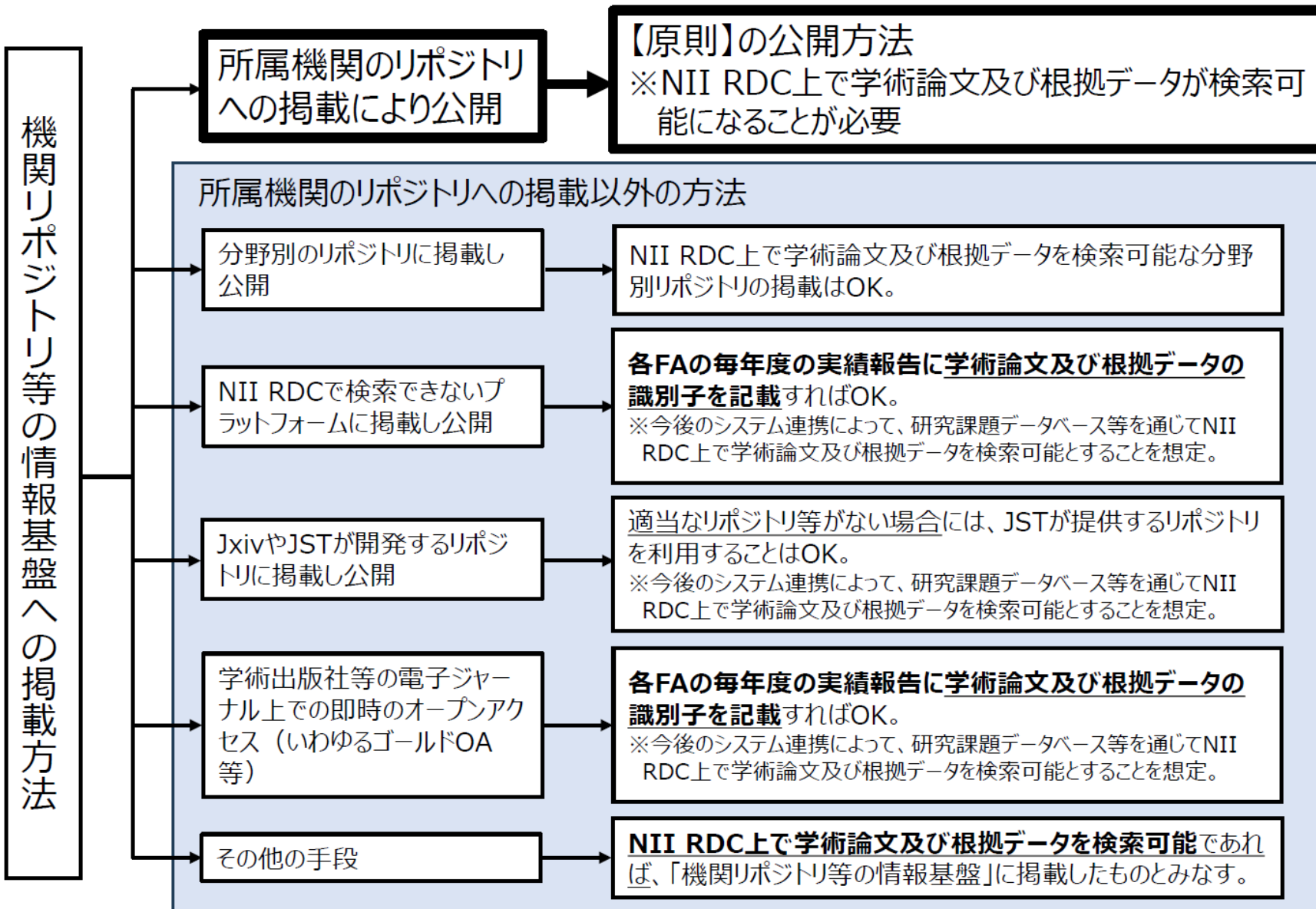
- ・出版社版のDOI <既存>

- ・「機関リポジトリ等の情報基盤」のランディングページのURL等の識別子 <新規>

vi. 根拠データへのリンク（機関リポジトリ等の情報基盤のランディングページのURL等の識別子。根拠データの公表が求められていない場合はその旨） <新規>

※転換契約やオープンアクセス掲載公開料（APC）の活用によりエンバーゴなしでオープンアクセスとした場合等について機関リポジトリ等の情報基盤への掲載が、掲載に係る手続きに時間を要することにより実績報告時に未実施の場合においても「即時オープンアクセスの実施有り」を選択。

D. 「機関リポジトリ等の情報基盤」への掲載



おまけ：
プレプリント

再掲「どうやって」をさらに踏み込む

- 機関リポジトリ
 - 当然OK！
- オープンアクセス雑誌
 - DOIを成果報告時に書けばOK！
- プレプリント
 - JxivはOK！ 他もNII RDCで探せるか、DOIを成果報告時に書けばOK！
 - ところで「プレ」でもいいの？⇔FAQ等を見る限りダメ！！
- 査読後の版を無料公開して成果報告にDOI書くことができればだいたいOK

即時OA義務化の対象外



医学界でも動きはある
ので一応紹介

プレプリントの現状と障壁

- 分野による差が激しい
 - コミュニティにおける文化の差
- 単純なOAへの態度とは異なる：「プレ」公開への態度
- 一層の推進の障壁は？
 - 雑誌ポリシー
 - 著者自身の意向

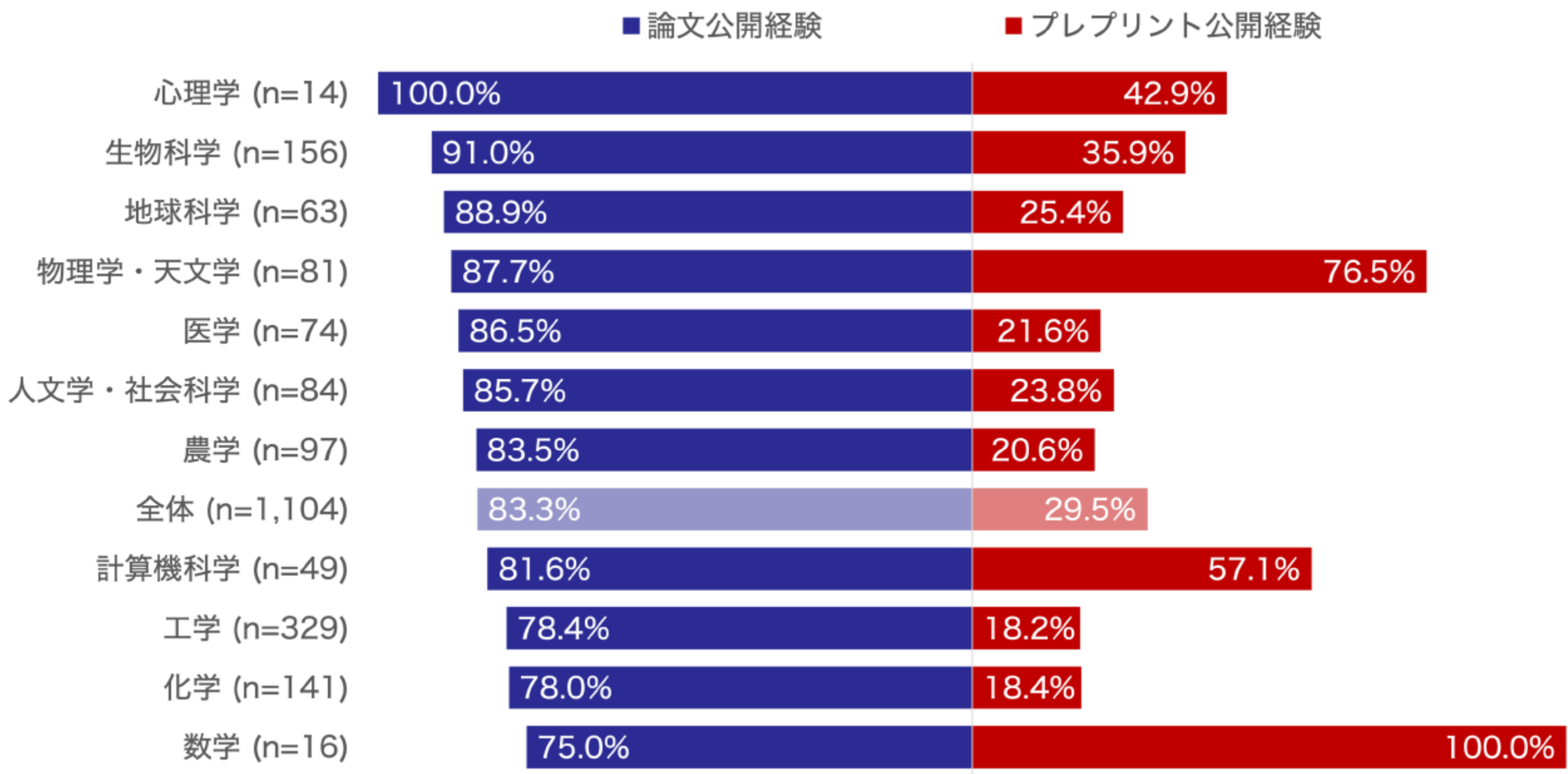


図 10 分野別論文とプレプリントの公開経験

主要雑誌のプレプリント方針

- 5大医学雑誌
 - BMJ：OK。非営利推奨
 - JAMA：OK
 - Lancet：OK。2018年からLancet with Preprints (SSRN)を提供
 - NEJM：非営利のサービス限定
 - AIM：OKだが出版の優先順位に影響？



eLife shifting to exclusively reviewing preprints

Open-access journal is moving to a 'publish, then review' model that emphasises preprints and public reviews.



Press Pack • Dec 2, 2020

Views 1,863 Annotations  0

eLife has announced that it is transitioning to a new 'publish, then review' model

<https://elifesciences.org/for-the-press/a4dc2f54/elife-shifting-to-exclusively-reviewing-preprints>

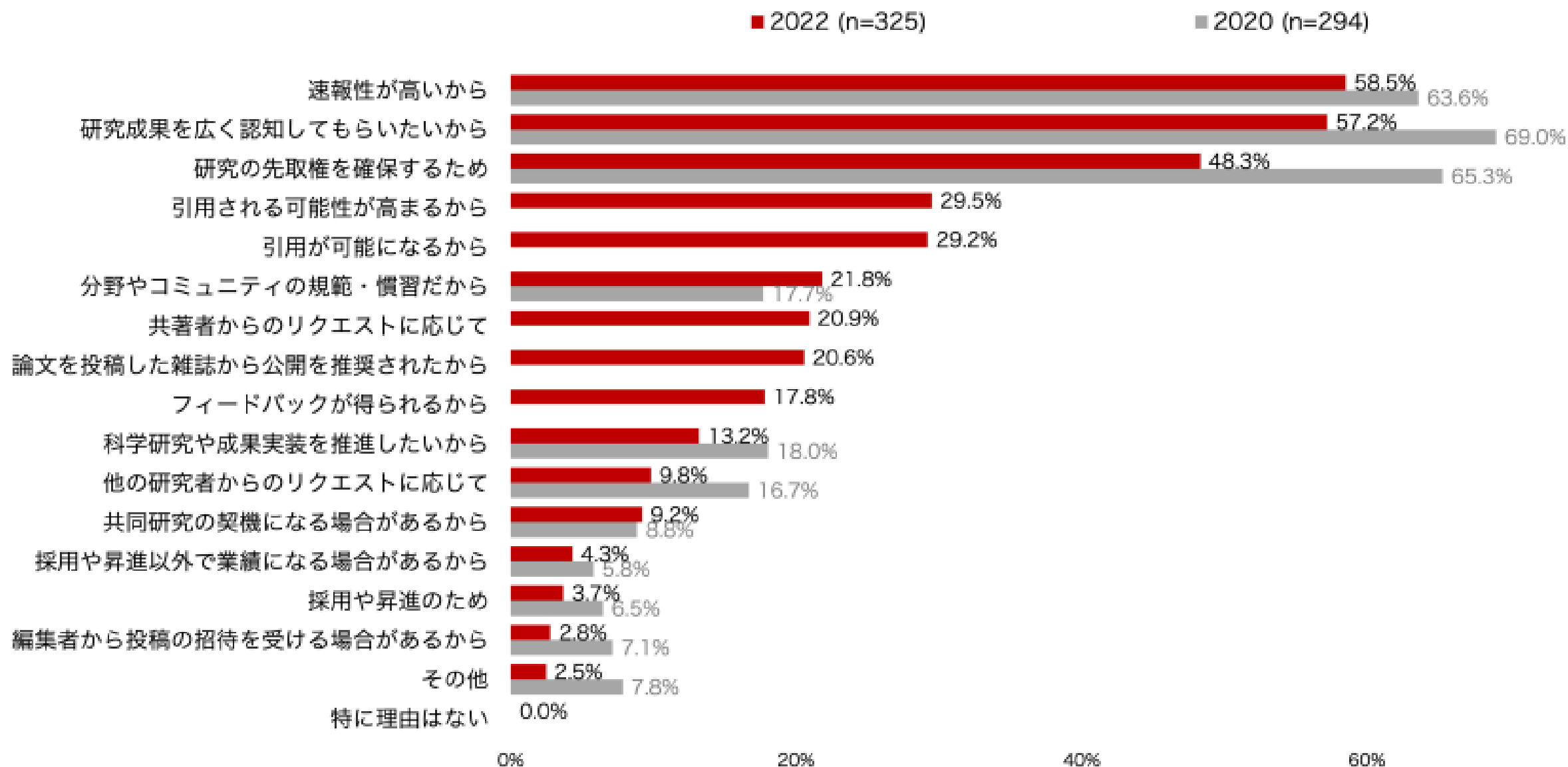


図 54 プレプリントの公開理由（2020/22 年，複数回答）

min2fly@slis.doshisha.ac.jp
shsato@mail.doshisha.ac.jp



出典・参考文献

- Xia, Jingfeng. Predatory Publishing. Routledge. 2022, 147p.
- Davis, P. “Open access publisher accepts nonsense manuscript for dollars”. The scholarly kitchen. 2009-06-10.
- Bohannon, J. Who's afraid of peer review?. Science. 2013, 342(6154), p. 60-65.
- 栗山正光. ハゲタカ出版社はゴールドOAの夢を見るか?. 月刊DRF. 2013, no.42.
- 三根慎二. オープンアクセスジャーナルの現状. 大学図書館研究. 2007, no.80, p.54-64.
- The Retraction Watch Leaderboard. Retraction Watch. <https://retractionwatch.com/the-retraction-watch-leaderboard/>, (2025-08-29 参照).
- Grudniewicz, A. et al. Predatory journals: no definition, no defence. Nature, 2019, (576), 210-212.
- The Intera Academy Partnership. Combatting Predatory Academic Journals and Conferences. 2022, 125p.
<https://www.interacademies.org/sites/default/files/2022-03/1.%20Full%20report%20-%20English%20FINAL.pdf>, (2025-08-29 参照).
- 松本ゆかり. 紀要『札幌医学雑誌』を装った偽Webサイトへの対応. 医学図書館. 2022, vol.69, no.2, p.78-82.